

動物の診察室から

○ 2 ○

逃走劇を繰り返した白山公園(新潟市中央区)のサルたちは、新しく塗り直した檻の中で、平和に過ごしているはずでした。騒動の翌年の六月の

ま、鉛中毒の解毒剤も投与されました。血液中の鉛濃度の検査結果が出るまで一週間かかりますので、検査結果を見てから治療を始めても間に合わないのです。そのまま入院させ、一旦一回の解毒薬を注射することになりました。

胃洗浄によりペンキのかけらと共にオレンジ色の

の金属片が多数採取されました。鉛を含まないペンキを塗ったはずなのに、その下に塗布されていたサビ止めの鉛が原因かもしれないと考えました。

週明けに、市に尋ねたところ、サルがペンキをはいで食べることは想定外のことです、塗ってあったサビ止めはそのまま、その上に、鉛の入っていないペンキを塗り直したとのことでした。胃

サルが木から落ちました!

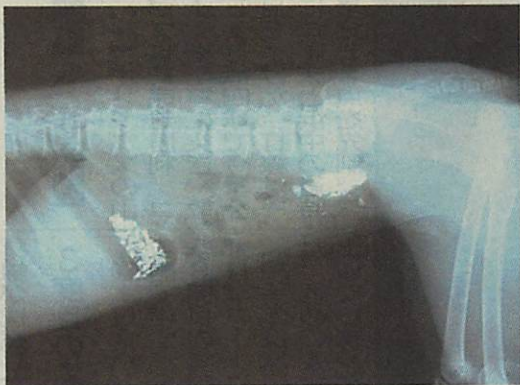
からは鉛が検出され、結局血液中の鉛の濃度は300μg/dl(正常は20μg/dl以下)で鉛中毒でした。

花子は、十日間の解毒薬の注射で回復していったのですが、その後、太郎とのり子が次々と神経症状を起しました。花子と同じ処置を受け、幸いにも三頭ともに一命を取りとめたのでした。

サビ止め食べ鉛中毒に

土曜日、私はトライアスロン参加のため、笹川流れを車で走行中でした。そのとき、病院から「先生、白山公園のサルが木から落ちたそうです。今、ほかの先生が白山公園に向かっています」との電話が。

急いでUターンして病院に戻ると、木から落ちた花子には、すでに麻酔がかけられており、エックス線検査により、胃と小腸に多量の金属片があるのがわかりました。神経麻痺のため木から落ちたと思われるので、その原因として疑われるのは



エックス線検査により金属片が認められた花子の腹部



サビ止めが露出した白山公園の柵=新潟市中央区

この「鉛中毒事件」の末、既存の柵の内側に鉛を使用しない新しい柵を作り、現在のような二重の檻ができあがりました。サルたちの健康は確保されましたが、皮肉なことに、来園者にとってサルがサルに見えるようになってしまいました。

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝

